

## 市史編さんの一言メモ

自治体史（「市史」や「町史」などと呼ばれます）は、歴史資料に基づいて執筆されます。歴史資料には自治体が保管する行政文書（公文書）のほか、家庭や集落（町内会や組）が保管する文書もあります。そして、自治体史編さんのはじめの一歩として、その素材となる資料の収集が絶対的に必要なのです！

編さん室では、資料をデジタルカメラで撮影し、デジタルデータを蓄積して、市史編さんに活用します。ちなみにこのような資料の収集・保全は「アーカイブ」と、アーカイブされた資料やそれを扱う機関は「アーカイブズ」と呼ばれたりします。



「うちにもある！」や「蔵のなかにあるかも？」とか、「おらほの集会所にある！」といった情報がありましたら、編さん室までお知らせください。

## 名取の歴史に 触れられる場所

### 名取市歴史民俗資料館

名取市の歴史資料、特に考古と民俗の資料を常設展示しています。企画展やイベントも定期的に開催されるので、要チェック。名取市の歴史に関心があれば、ぜひ訪問を。

### 名取市図書館

名取市の歴史や文化などに関する郷土資料（書籍や印刷物）を多く所蔵しています。名取市の広報や古い写真をインターネットで公開している「名取アーカイブ」も必見です。



## 資料求ム

市史編さんにはとても多くの資料が必要です。たとえば「古文書」と呼ばれる、和紙に筆と墨で書かれた江戸時代までさかのぼるような古い資料も必要ですが、それだけではありません。昭和や平成になってからの、名取市での毎日の暮らしがわかるような資料も重要です。商店街のチラシ、町の風景を撮った写真など「こんなもの使わないでしょ」と思わず、編さん室まで情報を寄せください！

古い絵図や地図も大事な資料です。家の掃除や、整理などで捨てる前にご連絡をいただけるとありがとうございます。また、内容をより分かりやすくまとめた普及版も刊行することにしていています。

市史への利用については、専門家とも協議しながら、良識的に検討し、プライバシーにも配慮して進めます。

また、資料を探したり、みなさんのお話を伺うため、市史編さんに携わる職員や、協力を依頼した研究者がお宅や地区を訪ねることもあるかも知れません。

ぜひ、お力添えをお願いします。

100年先まで残る新『名取市史』と一緒に盛り上げてください!!

### 名取市教育委員会 市史編さん室

電話：022-290-2090(直通)  
FAX：022-384-9690  
e-mail：shishi@city.natori.miyagi.jp



資料を撮影してデジタルデータにしています。  
市史をつくるための大変なデータです。



収集した資料です。いろいろな資料を集めています。

名取市史だより 第1号  
令和5年3月1日発行

編集・発行：名取市教育委員会教育部市史編さん室

〒981-1224 宮城県名取市増田字柳田570-2

仙台法務局名取出張所3階

名取市史だより 第1号

令和5年3月1日発行

名取市史だより 第1号

令和5年3月1日

名取市長



# 名取市史 だより

第  
1  
号

名取市の市制が昭和33年10月1日に施行されてから64年が経過しました。名取市史編さんは市制施行10周年記念事業として計画され、昭和43年に編纂委員会が発足し、昭和52年に『名取市史』が刊行されました。以来半世紀近くが経過し、新たな市史の編さんが望まれたことから市制施行60周年を契機とし、事業に着手することといたしました。そして今年度、市史編さんを本格的にスタートしました。

名取の地には古くより人が住み、時代を超えてたくさんの人を繋いできた多くの歴史が息づいています。市史の編さんに取り組むことで、こうした歴史を適切に記録・保存し、その成果を活用し、バトンを後世に継承してゆくことは、我々の責務であり重要な取り組みであると考えています。

新しい『名取市史』の編さんでは、原始から現代までの歴史や、民俗、名取の熊野信仰を全5巻にまとめる計画となっています。また、内容をより分かりやすくまとめた普及版も刊行することにしていています。

前回の市史刊行には、およそ10年という長い年月が費やされました。今回の新『名取市史』も年月を要する事業ですが、市民の皆さまのご期待にそえるよう取り組みますので、どうぞ理解とご協力をお願いします。

令和5年3月吉日



名取市史年表	
3月	昭和52年 6月25日
4月	昭和43年 9月30日
4月	令和2年 9月30日
4月	令和4年 9月30日
3月	令和5年 9月30日
3月	令和4年 9月30日
4月	令和2年 9月30日
4月	令和4年 9月30日
3月	昭和52年 6月25日

それから41年後：

市制施行60周年記念式典

市政施行10周年を記念し

市史編纂委員会が発足。

市史編さん委員会、市史

編さん室を設置。

市史編さん準備室設置。

市史編さん準備室設置。</

## 十三塚公園の なぞ

笠原信男

(市史編さん専門委員会委員長)

たきざわ教育長の  
ちょっとイイ!はなし  
とらえ方」という話が心に残っています。「肉体はなくなても、人の生きた証(精神性の命)は、人生を共有した家族や友人の心の中で生き続ける。残された人の人生を支え、豊かに膨らませてくれる。」という話でした。

歴史の本を読んだり、昔のことを調べたりするのは、幾多の先人達の「死後生」を探すことなのかもしれないとも思います。市の歴史民俗資料館見学後に6年生の児童がこんな感想を書いています。

「昔の人がどんな暮らしをし、どんなことをし、ここまで伝えてきたのかをよく学ぶことができました。こんな身近にたくさん歴史が残っていたことにびっくりしました。」

名取市に関わることだけでも、まだ沢山の「死後生」が眠っていることでしょう。今年編さんが始まった名取市史が、過去を紐解く道標となり、未来に託す財産になることを願います。

### 名取市史最前線

名取市は令和4年4月に市史編さん事業を本格的に始動しました。名取市では、昭和52年(1977年)に一度『名取市史』を刊行しているのですが、今回の市史編さん事業は改めて名取市の歴史を学術的にまとめ直し、新しい『名取市史』を刊行するものです。

この新たな市史編さん事業では、市内外の関係者で委員会や専門部会が構成されています。また、名取市教育委員会には市史編さん室が新設され、関係資料の収集、委員会の開催、部会の運営にあたっています。

今年度は第1回および第2回市史編さん委員会と、第1回市史編さん専門委員会を開催しました。なお、市史編さん委員会は有識者や市内の団体から推薦された委員で構成され、市史編さん専門委員会は大学の教員などの専門家で構成されています。

これら2つの委員会のほか、市史編さん専門部会も組織されています。多くの市民にご協力いただいて名取市の大歴史を本にまとめる事業が、始まりました。



7月12日に開かれた市史編さん委員会の様子

名取市図書館で、ノンフィクション作家の柳田邦男氏の講演を聴く機会がありました。その中で「死後生」という新しい命のとらえ方」という話が心に残っています。「肉体はなくなても、人の生きた証(精神性の命)は、人生を共有した家族や友人の心の中で生き続ける。残された人の人生を支え、豊かに膨らませてくれる。」という話でした。

歴史の本を読んだり、昔のことを調べたりするのは、幾多の先人達の「死後生」を探すことなのかもしれないとも思います。市の歴史民俗資料館見学後に6年生の児童がこんな感想を書いています。

「昔の人がどんな暮らしをし、どんなことをし、ここまで伝えてきたのかをよく学ぶことができました。こんな身近にたくさん歴史が残っていたことにびっくりしました。」

名取市に関わることだけでも、まだ沢山の「死後生」が眠っていることでしょう。今年編さんが始まった名取市史が、過去を紐解く道標となり、未来に託す財産になることを願います。

### 市史編さん委員会

	委員長	副委員長	1号委員	2号委員	令和4年12月現在
	我妻諭	瀧澤信雄	惠美昌之	相澤秀裕	名取市副市長
			笠原信男	江田佳子	名取市教育委員会教育長
			菅野正道	名取市文化財保護審議会会长	名取市文化財保護審議会会长
			千葉正樹	尚絅学院大学総合人間科学系教授	東北歴史博物館前館長
			藤澤敦	東北大学総合学術博物館教授	東北歴史博物館前館長
			太田良一	名取岩沼農業協同組合常務理事	仙台市市史編さん室元室長
			奥山浩二	江田佳子	名取市歴史民俗資料館ボランティア会庶務
			山田よし子	名取市郷土史研究会理事	名取市郷土史研究会理事
					名取市立愛島小学校校長
					名取市商工会女性部副部長
					※敬称略

### 市史編さん専門委員会

	委員長	副委員長	委員	令和4年12月現在
	笠原信男	藤澤敦	惠美昌之	東北歴史博物館前館長
			加藤諭	東北大学総合学術博物館教授
			菅野正道	名取市文化財保護審議会会长
			佐藤大介	東北大学史料館准教授
				仙台市市史編さん室元室長
				東北大学災害科学国際研究所准教授
				※敬称略

名取市手倉田の十三塚公園はスポーツ公園(野球場、陸上競技場、庭球場)、歴史公園(古墳時代等の十三塚遺跡)、自然公園(散策広場)に多様な遊具を揃え、多くの市民に親しまれています。

いま、十三塚はどうなっているでしょう。民俗学者の三崎一夫は昭和41年(1966年)、「三個の塚が残っている。明治四十年代までは一個の大きい塚とともに十三個完存していたが、昭和十一年園地にするとき崩された」という。この塚には一石十三仏碑が立っていたが、現在は近くの墓地の入り口に移されている。と述べています(「東北における十三塚の分布」『東北民俗』第1輯)。昭和52年(1977年)発行の『名取市史』に「閑院宮御野立所で桜のうえある園地」に「現在も三個の塚が残っている」とあります(『名取市史』906ページ)。昭和52年以降に塚は失われたようです。

私はこの「御野立所」や桜の園地が公園のどこにあるのかわかりませんでした。そこで文化財に詳しい市職員に尋ねると、「十三塚の場所はわからないが、御野立所は野球場南西に碑がある」と教えていただきました。すぐに現地で碑を確認しました。野立ては大正13年(1924年)に行われ、碑は昭和10年(1935年)に再建されたものでした。碑周囲の桜は故人の冥福を祈って昭和11年(1936年)に寄贈されたようです。

次に古い地形図を使って塚の並びを探りました。すると、碑のある地点は標高35メートルと公園で最も高く、ここから北西方向に丘陵尾根が約350メートル続いており、この方向に13基の塚が並んでいたと推測できました。

なぜ、十三塚公園の十三塚に注目しているかといいますと、塚の上に一石十三仏碑が立っていたからです。十三塚は十三仏信仰を背景に、戦国時代から江戸時代初期に造られたとする説が有力です。十三仏信仰は故人等の冥福を祈るために、中世の日本で生まれた先祖供養の形です。元来は13回(初七日・二七日・三七日・四七日・五七日・六七日・四十九日・百ヶ日・一周忌・三回忌・七回忌・十三回忌・三十三回忌)の供養を32年で行います。ところが十三塚では、年限を短縮して12か月で故人等を供養しました。

一石十三仏碑は供養に関与する13の仏を1つの石に彫り出したものです。仏の配置は一定で、初七日の不動明王は最下段右、四十九日の薬師如来は下から3段目右(欠落)、百ヶ日の観音菩薩は薬師如来の左、三回忌の阿弥陀如来は下から4段目左、三十三回忌の虚空蔵菩薩が最上段です。

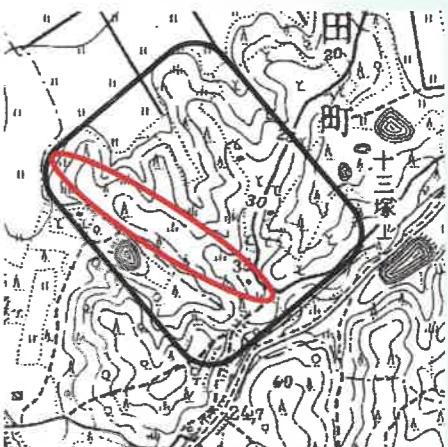
戦国時代から江戸時代初期の十三仏碑は全国で20数基知られていますが、碑と塚が同じ場所にある例は稀です。十三塚公園の十三仏碑は江戸時代のものと思われますが、十三塚と十三仏碑をつなぐ例として貴重です。そのため、私は新編の名取市史にこの旧状と現状をしっかりと記述し、後世に伝えたいと考えています。そこで最後に市民の皆さんにお願いがあります。下記のことをご存知でしたら、市史編さん室までご一報ください。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

① 3基の塚を〇年頃に公園の〇〇(場所)の辺りで見た。

塚と塚の間隔は約〇メートル。

② 一石十三仏碑を近くの墓地に移したのは〇年頃。

※現在、一石十三仏碑は、名取市民球場の東に位置する手倉田字山共葬墓地の敷地内(入口付近)にあります。



十三塚公園の旧地形図  
(昭和6年国土地理院発行1/2.5万)  
四角は現在の十三塚公園の範囲。  
青円は十三塚の推定範囲。